



関西いのちの電話



「大阪YMCA阿南国際海洋センター」にて 撮影：原 寛



「自然からの恵み」

頌栄短期大学副学長・副園長
関西いのちの電話 評議員 原 寛

4月28日(土)～30日(月)2泊3日 頌栄幼稚園16家族と共に、大阪YMCA阿南国際海洋センターに於いてファミリーキャンプを行いました。新緑が潮風に揺れ、こちよい風が頌栄幼稚園16家族を迎えてくれました。

何度か参加された家族は、1年しか経っていないのに「久しぶり、変わっていない」と海を眺めているお父さんやお母さん、子どもたちはヨットやカヌー、ライフジャケットに触れた後、食堂やふろ場の確認に走り嬉しさを体全体で表現していました。

初めて参加された家族は殆どの家族が、先生「道間違えた」「急に山に入っていくので不安でした」と不安な気持ちを抱きながら、おそろおそろ到着していました。次に発せられる言葉が「うあ～すてきなところ」「潮風の匂い」「海がきれい」と不安な気持ちを一変させる自然の魅力に変わりました。

期間中は、天候に恵まれカヌーに分乗し無人島「野の島」上陸を目指して漕ぎ出すが、中々まっすぐに進まない。右だ左だと大人は指示するがハブニング対応で益々進まない。「大潮の時期なので、潮の流れに負けるな」と大声に、止まればどンドン無人島から離れていくことに驚きと焦りが一気に目を覚まし、必死に漕ぎ出すカヌーが無事に「野の島」に上陸できた時の安堵し精根使い果たした大人たちは、地に足がついた安心感が漂っていました。自然に生えている筍掘りをチャレンジするも中々上手いかない。途中で折れた

筍に泣く子どもに、お母さんの一言「ごめんね、いつも筍食べないじゃない」と言ったら「この筍は違う、茶色い皮を何枚も着ている筍は食べる」と反論。家庭では、すでに竹の皮がなくアク抜きがされている状態の筍しか知らないと想像できた。

自分たちで釣った魚やヨモギ、筍など収穫した物を料理して食する時間では、日ごろ食べない物も自分で収穫した食材は美味しく食べる。自然の恵みから自然の不思議な力を再確認した。更に、適度な風が吹く中、ヨットセーリングは初心者でも楽しめるプログラムです。「風を読む」難しいですが、ロープから伝わる風の力を意識できると海面を走る楽しさを満喫されていた。センタースタッフの細かい配慮と、進行には皆が楽しめた最高に楽しいキャンプでした。

大阪YMCA阿南国際海洋センターは、今年で50周年を迎えました。私は、大卒後、赴任先が大阪YMCA阿南国際海洋センターでした為、創設に携われた、酒井哲雄先生(元大阪YMCA副総主事、元関西いのちの電話理事長・前頌栄保育学院理事長)が、今回も一緒にキャンプを過ごせた事は喜びに堪えません。

更に、関西いのちの電話評議員に導かれたきっかけは、阿南での直属の上司である三浦正先輩の後を引き継ぐ形になったことです。阿南から始まって関西いのちの電話と繋がりを深く感じた、キャンプであり関西いのちの電話です。これも大きな自然のなごる恵みの技と思い、関西いのちの電話活動に励みたいと考えております。

関西いのちの電話 相談電話 (24時間365日) ☎06-6309-1121
自殺予防いのちの電話 毎月10日 午前8:00～翌日午前8:00 ☎0120-783-556

2017年の電話相談から見えてくるもの

関西いのちの電話 記録分析委員会

かけ手の高齢化と若者の電話離れ

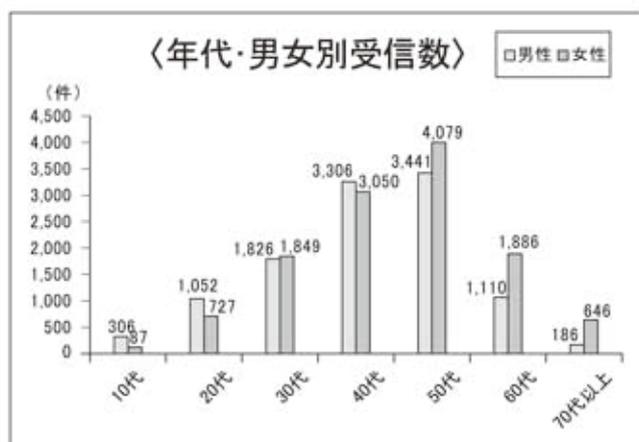
関西いのちの電話では、毎年、1年間の受信状況について記録分析委員会が統計的分析と相談内容から読み取った傾向についての報告をまとめています。

2017年全体を通して

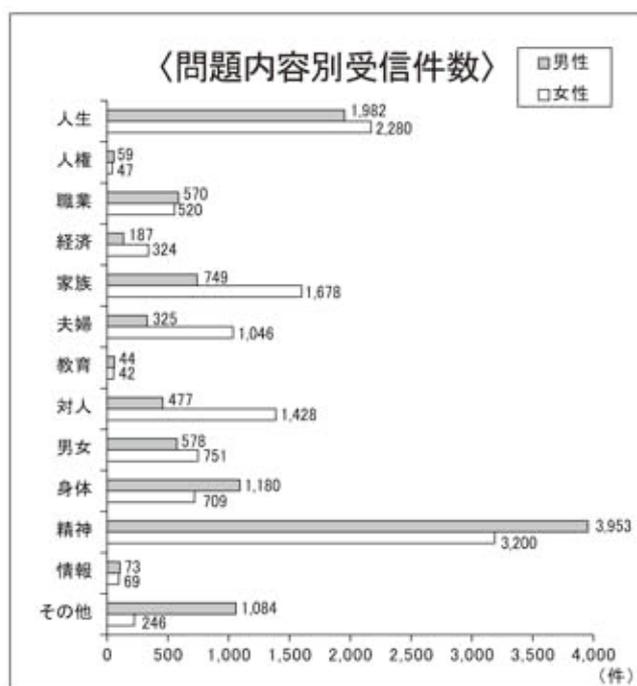
2017年1年間の総受信件数は23,601件。2010年以降、2014年の24,147件以外は23,000件台を推移。前年より約109件減少したとはいえ、月平均2,000件弱を受信し、月平均延べ508人の相談員がその相談を聴いています。かけ手の性別では、男性が全体の48%、女性が52%でした。また、心の病を持っていると思われる人からの受信件数は15,569件（総受信件数の65.9%）で、相談者の約7割の方が心の病を患っているのです。



年代・男女別で受信件数を見ると、男女共に50代が最も多く、次に40代、30代という順になっています。また10～40代までは男性からの受信が女性より上回りますが、50代以降は女性からの受信数が男性に比べて多くなっています。男性は若い年代に性の悩みが多くあること、また働き盛りの年代である40代50代にもかかわらず心を病み、働けないあるいは働き辛さ・生き辛さを訴える相談が多いように思われます。



50代の女性では、子どもの巣立ちから起こる喪失感、夫の退職と会話のない夫との生活、親の介護の中で自分の人生の展望を見失い心を病んでいく、そして将来への不安など、一気に降り注ぐ生活の変化をこの数字が表しているようです。



問題（相談）内容別では、「精神」心の病の相談が最も多く7,153件で、30%を占めています。うつ病や統合失調症に加え、嗜癖行動についての悩みも増加傾向となっています。2番目は男女ともに「人生」の問題で4,262件です。この中には、孤独を訴える人が多く、電話相談で誰かと繋がることで安らぎを求め掛けてきます。男性からの相談内容で「精神」「人生」が53%を占めるのに対し、女性からは44%です。女性からの訴えは、これ以外に「家族」（14%）、「対人」（12%）、「夫婦」（8%）など多岐に広がっています。また、男性からの相談に「その他」が1,084件と多くあります。これにはテレホンセックスではないかと思われる電話が含まれています。また、「家族」の近親姦、「身体」「精神」の性の悩み、そして「男女」の男女関係と言った相談内容の中にも、相談が進むにつれテレホンセックス的な内容へと変化し、はじめは真剣に相談者と向き合い、耳を傾けていた相談員が裏切られた思いになり、無力感を味わうこともあります。

自殺傾向について

自殺傾向の相談電話の受信件数は3,424件、総受信件数の14.5%、ほぼ7人に1人が自殺を考えていることを示します。前年と比べると、426件減少しました。また2012年は4000件以上だったのに対し、それ以降は年々減少傾向にあることがわかります(去年は3,850件と増加したが)。男女の占める割合を見ると、2016年、2017年は過去の年と比べ、男性の自殺傾向の割合が増加しています。自殺傾向の相談電話の年代別に占める割合は、50代・40代が一番多くそれぞれ32%(50代1,112件・40代1,190件)で、次に30代が15%という順です。また60代の割合は去年の10%に対し、今年は13%と増加傾向にあり、気になるところです。

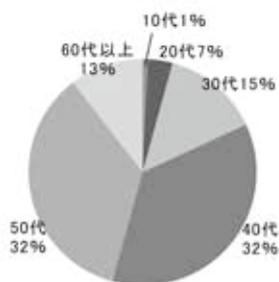


それぞれの年代の受信総数に対する自殺傾向の割合で見ると、40代17%、50代15%、30代14%となつて

自殺傾向・男女別の総件数比



自殺傾向の年代別分布



います。

また、問題(相談)内容は「鬱」が最も多く23%、「鬱」「統合失調症」「その他の精神疾患」を合わせる36%次に「生き方」14%、「孤独」10%でした。男女共に、精神を病み、世の中から孤立し、孤独と不安を感じ、「自分には生きる意味があるのだろうか」と多くの相談者が苦しんでいます。

自殺傾向の受信の内訳は、自殺をほのめかす「念慮」が91%、自殺をしようとする「危険」が7%、自殺

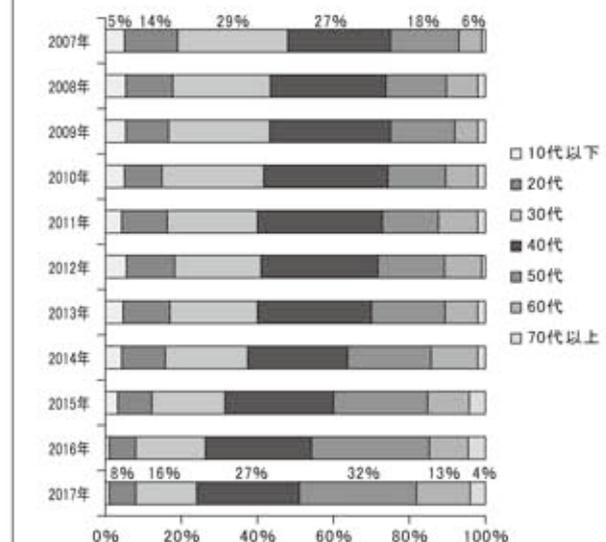
の「予告や通告」が2%、「実行中」が0.4%です。ほとんどの人が「念慮」ですが、今まさに自殺をしようとしている人からの緊急度の高い電話も年に十数件あります。

かけ手の高齢化と若者の電話離れ

過去10年間の受信の年代別割合を見てみると、10年前の2007年は30代以下が48%(10代以下5%、20代14%、30代29%)と総受信の約半数を占めていたのに対し、2017年には26%(10代以下2%、20代8%、30代16%)と減少しています。また50代以上では2007年は26%(50代18%、60代6%、70代以上2%)だったのに対し、2017年には49%(50代32%、60代13%、70代以上4%)と総受信の過半数を50代以上が占めていることがわかります。

このように10代以下・20代・30代の受信件数が年々減少傾向にあります。これは若者のコミュニケーション手段が、電話ではなくSNS(LINE、フェイスブック)といったパソコンやスマートフォンへと変化していることが一因だと考えられます。SNSやLINEは文字を介しての会話であり、電話での生の声で思いを伝えることは、特に心を病んでいる若者にとってハードルが高いのかもしれない。しかし若者の間でネットでのトラブルや事件が多く発生している昨今、そういった病んだ若者の心を包み込む何らかの手段を考える必要があるのではないかと考えます。そして、私たちがいのちの電話が、若者の心にどのように応えることができるかが問われています。

電話相談の各年代の占める割合 (2007年~2017年)



あたたかいご支援ありがとうございます

2018年3月1日～2018年5月31日までに、次の方々から社会福祉法人関西のちの電話への寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。 (五十音順 敬称略)

【個人】

浅野 敏行	片山 巖	佐治美知子	杉浦真喜子	永江 健	三浦 直之
上村あけみ	加藤 昌子	左藤 章	隅田 保	中野 爲夫	森田 和典
宇野 義男	金岡 重雄	佐野由紀子	竹村 武男	中野 桂子	山口 健一
大久保萬里子	鎌田 史朗	幣原 直子	田中 豊子	中村 勝吾	山田 孝彦
大坂 雅巳	上仲 卓也	柴峠 隆士	田村 礼子	馬場美代子	山田 道雄
大津 久直	北之坊皓司	下岡 佳子	筒井久美子	平栗 勲	吉村 幸三
岡崎 信恵	久保田満代	笑福亭松枝	坪内 憲治	藤田 淑雄	匿名 7名
小頭 誠	黒田 みつ	東海林恭子	道免 逸子	藤原 正巳	
小川 弘二	小村 典子	菅谷 道子	所 公子	真蔦 理美	

【団体】

愛徳カルメル修道会 本部修道院	河電産業株式会社	東豊中聖ミカエル教会
愛徳カルメル修道会 垂水修道院	香里ヌヴェール学院 中高生徒職員	姫路聖マリア病院
一般財団法人青木奨学財団	コニシ株式会社	前久保クリニック
(并) 芦屋西宮市民法律事務所	在日大韓基督教会大阪築港教会	正岡クリニック
江崎グリコ株式会社	サントリーホールディングス株式会社	(株) マツヤ
NTT西日本関西カンパニー	JR 西日本あんしん社会財団	YMCAサンホーム
大阪IIソフクラブ	塩野義製菓株式会社	渡辺クリニック
大阪帝塚山ライオンズクラブ	親切会	
大阪YWCA	菅原天満幼稚園	
柏原ライオンズクラブ	日本基督教婦人矯風会大阪支部	

◎他に相談員・理事・評議員・有志などが支えています。

こんなこともやりました！あいました！

2018年4月～6月の活動の一部をご紹介します。

- ・4月1日 54期養成講座応募者面接
- ・4月5日 NHK歳末たすけあい募金配分金通知書交付式
- ・4月14日・15日 54期養成講座受講生一泊体験学習
- ・5月18日 監事による2017年度決算監査
- ・5月21日 第1回理事会
- ・5月25日・26日 日本いのちの電話連盟総会・事務局長会議に出席(東京)
- ・6月5日 第1回評議員会
- ・6月15日・22日 大阪YMCA学院高校「共生社会」講義

夏期募金をお願いします

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として相談活動をおこなっています。皆さまのご支援が、電話をつなぎ「いのち」をつなげます。いのちの電話の活動を支えてください。

お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上優遇されます。
 □座名義：社会福祉法人関西のちの電話
 □座番号：ゆうちょ銀行 00990-3-68480
 : 三井住友銀行 十三支店(普) 998829

2017年度 財務報告

資金収支計算書 (単位：円)

勘定科目		決算	
事業活動による収支	収入	事業収入	5,339,320
		経常経費補助金収入	1,694,555
		経常経費寄付金収入	11,524,363
		雑収入	2,106,588
		受取利息配当金収入	2,536
	経常収入計(1)		20,667,362
	支出	人件費支出	7,348,036
		事業費支出	5,086,684
		事務費支出	6,569,099
		経常支出計(2)	
事業活動資金収支差額(3)		1,663,543	
施設整備等による収支	収入	0	
	施設整備等収入計(4)		0
	支出	施設整備支出	540,000
施設整備等支出計(5)		540,000	
施設整備等資金収支差額(6)		-540,000	
その他の活動による収支	収入	積立金取崩収入	200,000
	その他の活動収入計(7)		200,000
	支出	積立金支出(施設拡充)	200,000
	その他の活動支出計(8)		200,000
その他の活動資金収支差額(9)		0	
当期資金収支差額合計(11)		1,123,543	
前期末支払資金残高(12)		436,722	
当期末支払資金残高(13)		1,560,265	

エルダーものがたり IX 「鳥取での思い出」

鳥取では、忙しく充実した十一年間を過ごした。余りにも沢山の経験をしたので、強く記憶に残っているものを書きます。

【有意義な活動】教会の活動がまだ決まっていないうちに鳥取大学から英語を教えることに頼まれた。そのつもりはなかったが、閉鎖的と言われた鳥取の社会に関わる糸口になると思って引き受けた。YMCA関係の「学Y」と関わることも出来て、人生、社会、聖書の話等をして、楽しい交わりができた。クラブ活動としてキリスト教系の子供養護施設に行き、子供と遊んだり、勉強を見たりして有意義な活動だった。

【感動】教会の活動で、山の奥の集落に度々集会に行ったが、ある冬の日、食事に新鮮なわさびが出た。その集会によく来ていた青年が私がわさびが好きと聞いて、彼の知っていた場所から、数十センチの雪の中を掘って持ってきてくれた。「キリストのことを教えて貰ったお礼」と言った。感動のわさびだった！

別の町の教会では、体が不自由で来られなかった女性は人に送り迎えを頼んで、毎週礼拝に来始めた。前に座って、いつも何かを書いていた。何を書いているかと聞いたら、「エルダー先生の説教を書いて友人に送る」と答えた。あの不自由な手で！私は説教する重みを何倍も感じた。

【失望】鳥取市の近くに、教区の計画で将来発展すると思われた場所で教会と保育所に小さい建物を作った。私と塾学校の先生にやって欲しいと頼まれた。少し成長して、やっと若い牧師夫婦を迎えることが出来た。奥さんには保育所の園長になって貰い、小さい建物は牧師夫婦の住まいにした。皆が「これからだ」と思った矢先にある日曜礼拝説教を頼まれて行ったら婦人たちが泣いていた。「牧師夫婦がいない、部屋は空っぽ」と言った。夜逃げなのか!?延びていた保育所の募集の時期でもあったし、何より皆から信頼もされていたのに。私は失望、怒り、混乱と不安、数え切れない気持ちが入り交った。

【希望】教会は何とかできるが、保育所は無資格の若い一人だけでは大変だ。早速、幼児教育専門の清和大学の友人に電話して、誰かいないか聞いたところ、「一人だけ決まっていないう」と答えた。是非来て欲しいとお願いした。教会の婦人たちは歩き回って子供を集めた。新しい女性の園長はとてよくやって、保育所は落ち着き始めた。しかし、教会に失望した人が多くて、皆、来なくなった。礼拝に、二、三人の日が度々あった。それでも教会で一人暮らししていた園長は女子高校生に人気があって、遠のいていた人達も段々教会に来始めて、活気がでてきた。次に招いた牧師はしっかりした人で、教会も保育所も伸びて行くと感じた。現在、その場所は綺麗な

礼拝堂と100人以上の子供園があり、その当時の苦労は大きく実った。

【命がけ】私は去年、久しぶりに鳥取に行った。色々な昔話の中で長年、母子寮で活躍した一人の女性が立ち上がって、「私がここにいるのはエルダー先生のお陰です」と言って、「学Y」の時の話をした。私もよく覚えていた。「私達は毎年の夏、大山で合宿して頂上から夜明けを楽しむために、両側が急斜面の狭い道を縦に並んで進んで行った。私はつまずいて、頭から数十メートルの砂利の斜面を滑り始めた。下は岩場で、ここで死ぬと思ったが、後ろから大きな手が私の足首を捕まえた。」

確かに私は咄嗟に体を投げ出して彼女の足を捕まえた。そして後ろの学生たちも必死に私の大きな体を抑えた。やっとの思いで安全な場所に行き、皆で輪になったが、暫らく誰も一言も言わなかった。私達は全員、無事に山を下りた。

【悲しみ】最も辛かったことは、保育所の子供が不幸にもトラックに引かれて命をおとした。まだ幼い3歳の女の子だった。私は、家族と共に深く悲しんだ。その後、その家族のお婆さんは洗礼を受けて、教会には重要な人となった。

【思いがけないプレゼント】ある教会では、婦人牧師に「この新聞紙を踏んで」と言われて次に行ったら、私の足にピッタリの手作りの下駄を頂いた！生まれて初めての下駄は私の足に馴染んでくれて長く愛用していた。

私は、牧師として「鳥取」と言う場所に大きく育てて貰った様に感じている。

ウィリアム・エルダー (William Elder)



2018年3月「祝賀会」にて

1926年生まれ。1948年宣教師としてアメリカから来日、以来70年間日本在住。
1973年東京英語いのちの電話(TELL)設立時の研修に関わり、1980年に関西いのちの電話の研修担当として相談員の育成に尽力し、現在もグループリーダー、スーパーバイザー、養成講座講師など関西いのちの電話の重鎮である。
指導における温かい視点、そのわかりやすさには定評があるが、何より人間性の豊かさ、懐の深さに感銘を受けることが多い。大阪女学院短期大学名誉教授。



問いかけることと共感 8 「〈Understand〉と 〈理解〉の違い」

私の友人が興味深い話をしてくれました。彼曰く、「日本語で、相手のことを分かるといのは、普通に〈理解〉すると書きます。これは相手の〈理屈や理由が解る〉ことです。英語では〈Understand〉です。〈一段低いところに立つ〉というのです」と。

つまり相手を分かるには、相手より低い位置からその人に接して、〈いま〉その人がどのように感じ、思い、どうありたいのかなどを受け取っていく。こんな〈理解〉のあり方が、アクティブ・リスニングであり、〈謙虚に問いかける〉姿勢ではないかと、教えてもらったように思っています。

今日も相談電話では、長い電話・一方的に中断される電話・怒りをぶつける電話・日常会話に終始する電話・一度終了したのにすぐに掛ける電話・内容がつかめない電話などに、耳を傾けながらこれらの人をどのように分かり、受け止めていけばよいのかを自らに問いつつ、応答の努力をしています。

しかし、先の友人の話は、そんな私たちに低いところからの目線ではなく、上から目線、自分の世界とは遠い存在と見ているのではないかと問いかけているように思うのです。

それに加えて、私たちがこれらの電話を掛けてくる人を、「問題を持っている人」「困った人」果ては「異常な人」としてとらえ、遠ざけているのではないのかという指摘です。

その人は「問題」を持っているけれども、その人が「問題」の実体なのではなく、その「問題」はその人とその家族などとの相互作用の中から作り出されたものとして聴くのです。その語りには、その人自身が「問題」としている人間関係や人生を貧しくしている関係のあり方が表現されています。

その語りを手がかりに対話を重ね、その人自身が意味を問直し、その人を縛っている関係に抗えるように、そして本人にとって望ましい未来へ抜け出せるように、手助けをすることが、私たちの活動の目指すところではないでしょうか。

(長尾文雄・元大阪女学院大学／短大講師)

バザーのお知らせ

11月3日(土)10時から
聖贖主教会及び中庭にて



関西いのちの電話創立45周年記念バザーを開催します。バザー委員会ではたくさんの方に来ていただき、楽しんでいただけるバザーにしたいと思っています。

関西いのちの電話
第23回
チャリティーコンサート

ATSUKO 天満敦子 TEMMA ヴァイオリンコンサート

日時 2018年10月26日(金)
18:30開演(17:30開場)

場所 いずみホール 大阪市中央区城見1-4-70
JR大阪環状線 大阪城公園駅より徒歩約3分

前売 ¥3,000 (当日 ¥3,500)

■チケットの取り扱い・お問い合わせ 関西いのちの電話 事務局
電話：06-6308-6868 FAX 06-6308-6180
E-mail: kaind@age.ac



この広報誌は、平成29年12月に実施されたNHK歳末たすけあい配分金を受けて作成したものです。府民(寄付者)のみなさまに感謝いたします。

編集後記

投稿記事では、「自然」と「出会った人」との豊かな「つながり」が、大切といえる話が満ちている。自然との「つながり」が子どもを生き生きさせ、その「場と時間」を共有する大人も楽しい時を得ている。ある人と出会い、時間を共有したその「つながり」が、その人のその後の人生で大きな財産となっている。

反面、報告記事では、豊かな「つながり」を得ることができないか、失ったと想像される人が、一時のささやかな「つながり」を求め、電話する姿が示唆されている。

電話を通しての「つながり」が、かけ手の一時のささやかな安らかな時間となることを念じて相談員は受話器を取る。(H.S)

電話相談受信状況(2018年)

受信月	3月	4月	5月
受信件数	2,059件	2,105件	2,166件
相談員数(延)	523人	519人	525人

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72
TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180
発行人 李清一 編集 広報委員会
ホームページ <http://www.kaindnew.com>